

2023年1月19日新大学名称を
大学設置・学校法人審議会へ提出決定!

東京科学大学 (仮称)

Develop "Convergence Science" through Cooperation and Collaboration

東京医科歯科大学と東京工業大学は2024
ことで基本合意しました。世界水準の教育研
究初めです。統合の背景や狙い、今後の課題や展
望一哉学長に語っていただきました。

年度をめぐりに統合し、新しい一つの大学になる
研究を展開する指定国立大学法人同士の統合は
望について、本学の田中雄二郎学長と東工大の

対談実施日：2022年12月8日

既存の組織に縛られることなく
失敗を恐れず挑戦できる環境に

田中 本学は、もともと歯科医師、次に
医師を育てる学校として始まり、今日
まで教育・研究に一生懸命取り組ん
できました。しかし、良い医療を行おうと
して頑張れば頑張るほど、歯学、医学の
領域を超える部分が必要になり、それ
を解決するのが工学でした。また、コ
ロナ対応を機に、まずは社会ありきの大
学であるべきだという認識が学内で共
有されました。そのため、我々が社会に
一層貢献していくためには工学との連

携が不可欠だと思い、益学長に声を
かけた次第です。

益 最初にお話を頂いたときは、正直
言って「そういう考え方もあるのか」程
度の印象でした。その理由は、本学の設
立理念は、工業工場があつて工業学校を
興すのではなく、工業学校をつくり、人
材を育てることによって工業工場を興
すことにあります。しかし、ここ30年余
り、我々は本当にその理念にのっとつて
社会に貢献しているのかという強い危
機感を抱いてきました。ですから、当初
は理工系の総合大学としては、医科歯科

大との連携よりも先にすべきことが
あるのではないかと思つたわけです。

田中 両大学とも指定国立大学法人で
すから、国際的な競争環境の中で世界最
高水準の教育活動を展開し、ひいては社
会の成長とイノベーションの創出に貢
献することが期待されていると認識し
ています。したがって、この役割を踏ま
えて二つの大学が統合すれば、組織、研
究、教育の融合が進み、医工連携による
新たな教育研究や人材創出などが容易
になると我々は考えました。統合形式と
して、一法人二大学よりも一法人一大学
の方が将来の可能性が広がる提案さ

れたのは益学長だつたと思います。

益 田中学長といういろいろなお話をし
ている中で、お互いに学知の創造はもち
ろん、新たな産業や社会を創出する
という同じ志を持っていることが分
りました。本学の設立の原点である視
点に共通点を感じたのが、一法人一大学
を目指そうと思つた大きな理由です。
また、一から新大学を構築することに
よつて、既存の組織に縛られず、失敗を
恐れずチャレンジできる環境をつくる
ことが可能になると思えたのも理由の
一つです。

東京医科歯科大学 学長
田中 雄二郎
Yujiro Tanaka

東京工業大学 学長
益 一哉
Kazuya Masu



両大学の文化の違いを超えて より良いものを作りあげる

田中 両大学の統合の目的は、双方のこれまでの伝統と先進性を生かしながら、どの大学も成し得なかった新しい大学のあり方を創出することです。昨年、統合協議を公式にスタートして以来、学内で質問や意見を募集すると100件以上集まったのですが、おおむねポジティブでした。学生の中には、せっかく憧れの大学に入学したのに、卒業証書の大学名が変わってしまったのは寂しいと感じている人もいます。一方で、大学がなくなるわけではないので、むしろ発展するという前向きな捉え方をしてくれる人の方が多いようです。医学や歯学に工学が連携すれば学問の幅が広がりますし、例えば、診療現場で用いるロボットなどの医療機器が進化したり、自分たちの大学で作れるようになったりするのには、とても刺激的なことですからね。

益 本学の学生にも、両大学の文化の違いをどう乗り越えようとか、医工連携になると医師の言うことに応じなければいけなくなるのかといった心配事があります。しかし、医工連携によってオーバーラップする部分もあり、今以上に良いものが作れるようになるわけですから、もっと高い視座で議論しようとは私は常に言ってきました。既存の学問領域にとどまらず、人

に直接関わる医学や歯学も取り入れて、社会実装につながる取り組みを展開していくのは、非常に有意義なことだと思います。ですから、名誉教授や卒業生の人たちからも「前向きに進めてほしい」という意見をもらっています。

複数の学問が融合した総合知

世界的課題の解決を目指す

田中 両大学は、統合の狙いの一つとして、複数の学問を融合した「コンバージェンス・サイエンス」の概念を掲げています。このことについては、どのような考えをお持ちですか。

益 部局などを超えて連携協働できることに大きな意義を感じています。歴史的に見ても、20世紀中盤は物理学と工学を融合した物理工学によって原子力やインターネットなどの技術革新が進み、現在は工学と生物学が融合した生命工学による生命機械が未来を支えています。このような展開を考えると、今後の50年間は理工学、医歯学、情報学、人文社会科学などを融合した「総合知」が、脱炭素や人々のウェルビーイングといった世界的な課題の解決につながると思っています。本学としては、リベラルアーツもきちんと理解した上で社会の課題を自ら発見し、解決できるような、幅広い知見を備えた人材の育成を目指しています。

田中 私も、統合によってさまざまな課題に対

応するコンバージェンス・サイエンスが実現することを期待しています。そうでなければ統合の意味がありません。例えば、本学の医療現場にいる人たちのニーズを大学で昇華させて、東工大の方々の技術と連携させることができれば、かなりいろいろなことが進むと思います。また、さらにその研究結果を医療現場にフィードバックすることによって、社会実装につながるシステムも構築できると考えています。

益 技術連携のことですと、本学出身の研究者が医科歯科大の生体材料工学研究所で歯の接着材を開発し、医科歯科大の歯科医師がそれを世界中に広めたという歴史があります。そして現在も、医科歯科大、東工大、静岡大、広島大の4大学は文科省の共同研究拠点としてさまざまな研究を進めています。本学が作った電子デバイスを用いた医療用機器もありますし、統合によってさらに情報共有が深まれば、今まで以上の成果が生まれると確信しています。

研究者・学生が交流できる

風通しの良い環境の整備を

田中 東工大の学生さんの中には、統合の話オープンにした段階で既に本学の学生にコンタクトを取りたいと言ってくださる人がいると聞いています。今後も、そうした交流が進むことを期待しています。統合の移行期間については

2027年度までとしています。2024年度の統合時点で入試制度や学部組織を変更できるとは考えていません。ただ、せっかく一つの大学になるのですから、両大学の新入生が一緒に学べる場をつくるか、あるいは共通の単位を取り合えるようにはしたいと思っています。また、実習や卒業研究でお互いが乗り入れられる環境も早く整えていきたいと考えています。

益 統合しても、初めのうちは壁があるのが自然なことだと思っています。本学も、以前はコンクリートのように厚い縦割りの壁があったのですが、2016年度に大規模な組織改革を行ってからは、いつの間にかアクリルのような薄い壁になり、次第にドライバーですぐ穴が開くようになって組織内の風通しが良くなりました。ですから、今回の統合においても、お互いを隔てる壁に風穴を開けるような意識を持ちたいと思っています。

両大学のミッションのつながり

社会貢献の鍵に

益 医科歯科大のミッションにある「知と癒しの匠を創造する」という表現は、技術者である我々の心にとても響きます。本学は、明治の殖産興業と昭和の日本の高度成長を技術で支えてきました。ですから、技術を究める、ということに大きな自負心があります。実は、明治時代の本学は繊維産業や窯業に強く、焼き物の分野では人間国宝の濱田庄司や島岡達三などの著名な作家が数多く生まれています。中国から来た

History

～両大学の歩み～

● 東京医科歯科大学

● 東京工業大学

1928年 10月
東京高等歯科医学学校設立（一ツ橋）

5月
東京職工学校設立

1881年

1930年 12月
東京高等歯科医学学校湯島（東京女子高等師範学校跡地）に移転

3月
東京工業学校に改称

1890年

1944年 4月
東京医学歯学専門学校となり医学科を設置

5月
東京高等工業学校に改称

1901年

1946年 8月
東京医科歯科大学（旧制）設立

4月
東京工業大学（旧制）へ昇格

1929年

1949年 6月
医学部、歯学部附属病院が医学部、歯学部附属病院にそれぞれ改称

4月
建築材料研究所、資源化学研究所、精密工学研究所、窯業研究所を整備

1954年

1951年 4月
国立学校設置法により東京医科歯科大学（新制）設立
医学部医学科、歯学部歯学科を設置

6月
生命理工学部設置

1990年

1955年 4月
大学院医学研究科、大学院歯学研究科を設置

4月
国立大学法人東京工業大学設置

2004年

2004年 4月
国立大学法人東京医科歯科大学設置

4月
教育研究改革により学院制へ移行

2016年

2020年 10月
指定国立大学法人に指定

3月
指定国立大学法人に指定

2018年

2021年 10月
医学部附属病院と歯学部附属病院が一体化し、東京医科歯科大学病院になる

創立 140周年

2021年

留学生が本学で勉強して故郷に戻り、焼き物で有名な景徳鎮陶磁大学の学長になった例もあるほどです。そのように、技術を究めることが美しいものを創り出す「匠」の心につながっており、それも自己満足ではなく、社会のためになっているのが本学の特長だと思います。

田中 何かを究めたい人がたくさんいるのは、とても素晴らしいことですね。そのようなマインドを持った方々が社会で活躍されているからこそ、東工大には高い存在価値があるのだと思います。

**対面での相互作用があつてこそ
新たなものが生まれてくる**

田中 日本では医学部のある大学には必ず病院が併設されていて、本学には医学と医療の二つの部分があります。東工大の方々はそのことを理解して、医学だけでなく医療にも関心を持たれているのでしょうか。

益 まだ理解しているとは言えないかもしれませんが、例えば建物を建てるときに新しい材料や工法を工学的なセンスで考えるように、最先端の医療についても自分たちで何か提案してみようという気持ちが生まれているのは確かです。

田中 そうしたポジティブな部分の積み重ねが、全体のムードを変えていくのではないでしょうか。

益 その通りだと思います。よく言われることですが、多様な人々が集まり相互作用の多い組織ほど新しいものが生まれます。昔はお茶を飲みながらアイデアを出し合うようなことがよくありましたが、今はインターネットが発達して、そうした機会が減っています。でも、やはりFACE TO FACEの交流は大事で、そこから満足や幸福といったものが生まれてくるのだと思います。そのためにも、新しい大学には意識的に研究者や学生が交流できる場を設けて、いつの間にか交わることが当たり前になって新しいものが生まれてくるような環境をつくりたいと思います。

田中 フラットで自由な人間関係のもとで両大学の尖った研究を生かしつつ、研究者自身が興味に根ざした活動のできる「自由闊達」な環境を構築したいと思います。

益 そういえば、医科歯科大の初代学長は「歯科を極めるためには右手に医学、左手に理工学が必要だ」とおっしゃっていますよね。その言葉を知ったとき、えも言われぬ縁を感じました。改めて医科歯科大との統合に運命に似たものを感じています。

田中 ありがとうございます。新大学の設立に向けて、これからもよろしくお願いたします。

